



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



夏休み

校長 佐藤 信孝

夏休み。あー、夏休み。素敵なお響きです。きっと、保護者の皆様、地域の皆様もこの言葉は大好きなのではないでしょうか。いや、逆に、子どもが家庭にいて、何かと大変ですという方もいるかもしれませんが。

子どもたちは、これがしたい、あれがしたい、こんなこともしたい、たくさんやりたいことがあるでしょう。中には、選びきれない子もいるかもしれません。

2017年に105歳で亡くなられた医師の日野原重明さんがお書きになった「いのちのおはなし」という絵本が校長室の前に置かれています。この本には、日野原さんが行った「いのち」の授業について書かれています。日野原さんは、黒板に「0」の数字を書いて、太くてしっかりとした白い直線を横にどんどん伸ばします。そして、右端に「100」と書いて、その左隣に「95」とご自身の年齢を書き、「0」の近くに、この授業を受けた4年生が到達する年齢「10」を書きます。その後、一人ひとりの鼓動を聴診器で確認した後、95年動き続けた日野原さんの心臓の音を聞かせます。そして「いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。」と言います。「心臓が止まったら、人間は死んでしまい、つかえる時間も無くなるのです。いまきみたちは、どのようにでもつかえる自分の時間をもっている。時間をつかうことは、いのちをつかうことです。」と子どもたちに伝えます。(『いのちのおはなし』文：日野原重明 講談社 2007年発行)

ぜひ、子どもたちには、この38日間の夏休みの時間を有意義なものにしてほしいと願います。

令和2年に文部科学省から出された「青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書」では、小学生の頃に行った「体験活動」や「読書」「遊び」「お手伝い」の経験は、長時間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることが報告されています(令和2年度青少年の体験活動の推進に関する調査研究報告書プレット(概要))。保護者の皆様には、子どもたちがよい体験ができるように環境を整えていただくようお願いいたします。令和4年度の文部科学省の同報告によれば、令和元年度から公的機関等が行う行事への参加が減少しているとのこと。「参加しなかった」と回答した保護者の理由には、コロナ禍の影響も含め様々なものがありますが、「団体や行事などがあることを知らないから」が23.7%だったそうです。児童館や公民館などの公的施設、自治会や子供会などの地域団体が行う行事等の情報もキャッチしていただければと思います。

さて、私はというと、小学校5年生の夏休み最後の日、母親に叱られながら宿題をしたその風景がいまだに忘れられません。今でも、夏休み前には目標や計画を自分なりに立てるようにしていますが、その通りにいった夏がいくつあったことか。難しいものですね。

1学期間、保護者の皆様におかれましては、大変お世話になりました。子どもたちもそれぞれにがんばった1学期だったと思います。学期末に渡された「お知らせ」やノート、プリントなどの「学習のあと」、そして「通知表」。うまくいったこと、いかなかったこと。がんばったこと、これからの希望、夢、困っていること…。じっくりと聞いてほしいと思います。そして、それぞれに意味を見出し、励ましてほしいと思います。夏休み明け、学校に足が向かない子もいるかもしれません。ぜひ、背中をそっと押していただければと思います。学校も2学期以降に向けて準備をし、子どもたちを温かく迎えます。

最後になりましたが、1学期の間、子どもたちをそして学校を支えていただきました保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございました。深く感謝申し上げます。2学期の開始8月27日(水)に、みんなが元気にスタートできればと思います。2学期もどうぞ、よろしく願いいたします。